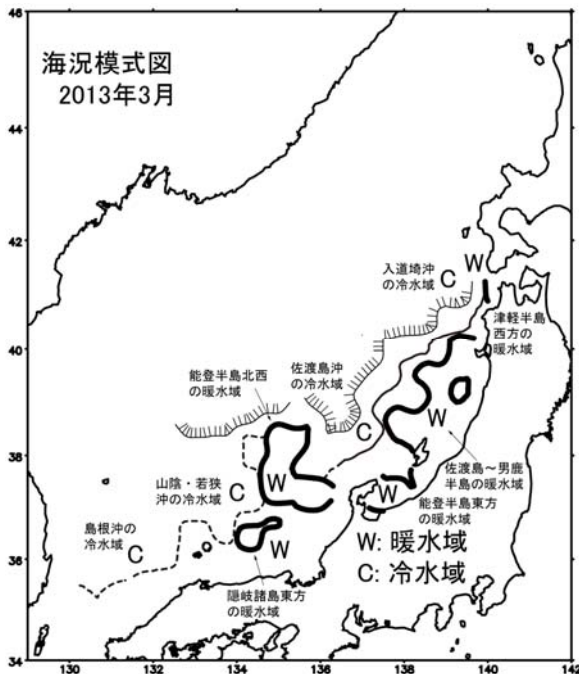


平成25年度 第1回 日本海海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
日本海区水産研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(平成25年4月~6月)のポイント

- ・ 対馬暖流域の表面水温は、“平年並み” ~ “やや高め” で経過する。
- ・ 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“平年並み” で経過する。



2013年4月~6月の海況

- 隠岐諸島東方の暖水域は、東方に移動して能登半島西岸に分布する。
- 能登半島北西の暖水域は、ほぼ停滞する。
- 能登半島東方の暖水域は、北東に移動して佐渡島北東に分布する。
- 佐渡島~男鹿半島の暖水域は、勢力を弱めながらやや北上する。
- 津軽半島西方の暖水域は、消滅する。
- 隠岐諸島北西と東方に新たな暖水域が形成される。
- 島根沖、佐渡島沖の冷水域の張り出しは、やや強め。
- 山陰・若狭沖、入道埼沖の冷水域の張り出しは、やや弱めで経過する。

問い合わせ先

独立行政法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所 業務推進部

担当：関根、檜山

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>

平成25年度 第1回 日本海海況予報

1. 今後の見通し（2013年4月～6月）

- (1) 隠岐諸島東方の暖水域は、東方に移動して能登半島西岸に分布する。能登半島北西の暖水域は、ほぼ停滞する。能登半島東方の暖水域は、北東に移動して佐渡島北東に分布する。佐渡島～男鹿半島の暖水域は、勢力を弱めながらやや北上する。津軽半島西方の暖水域は、消滅する。隠岐諸島北西と東方に新たな暖水域が形成される。
- (2) 島根沖、佐渡島沖の冷水域の張り出しは、やや強め。山陰・若狭沖、入道埼沖の冷水域の張り出しは、やや弱めで経過する。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“ 平年並み ” ～ “ やや高め ” で経過する。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも “ 平年並み ” で経過する。

2. 経過（2012年11月～2013年2月）

- (1) 11月に能登半島西方～北西にみられた暖水域は、やや東方に移動し、2月には能登半島北西～北方に分布。11月に佐渡島南西にみられた暖水域は、北東に移動し、2月には佐渡島～男鹿半島に広く分布。11月に佐渡島～男鹿半島にみられた暖水域は、12月はほぼ停滞したがその後北上し、2月には津軽半島西方に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、11月は規模・接岸状況とも平年並み。12月はやや大きく接岸状況は平年並み。2月は規模・接岸状況とも平年並み。山陰・若狭沖の冷水域は、11月はかなり小さくかなり離岸。12月はやや小さくかなり離岸。2月はやや小さくやや離岸。佐渡島沖の冷水域は、11月・12月は規模・接岸状況とも平年並み。2月は規模は平年並みでやや接岸。入道埼沖の冷水域は、11月は規模は平年並みでやや離岸。12月・2月は規模・接岸状況とも平年並み。
- (3) 対馬暖流域の表面水温
11月は、能登半島東岸～津軽半島の日本海北部沿岸域で “ かなり高め ” ～ “ はなはだ高め ”、隠岐諸島南東及び北西沖合で “ かなり低め ” ～ “ はなはだ低め ” 以外は概ね “ 平年並み ”。12月は、欠測域が多いものの、山陰沿岸の広い海域で “ かなり低め ” ～ “ はなはだ低め ”、能登半島北東で “ はなはだ低め ”、山形県沿岸で “ かなり低め ”。2月は、隠岐諸島周辺、若狭湾、能登半島西岸、佐渡島東方で “ やや低め ” ～ “ かなり低め ”、能登半島北方の一部の海域で “ かなり高め ” 以外は概ね “ 平年並み ”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、11月は日本海西部で “ 平年並み ”、北部で “ やや高め ”。

3. 現況（2013年3月）

- (1) 暖水域は、隠岐諸島東方、能登半島北西、能登半島東方、佐渡島～男鹿半島、津軽半島西方に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、やや大きく接岸状況は平年並み。山陰・若狭沖の冷水域は、やや小さくかなり離岸。佐渡島沖の冷水域は、規模・接岸状況ともに平年並み。入道埼沖の冷水域は、やや小さく接岸状況は平年並み。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、隠岐諸島東方、鳥取県沿岸、能登半島北西、男鹿半島南方で “ かなり低め ”、能登半島北西はるか沖合の一部の海域で “ かなり高め ” 以外は概ね “ 平年並み ”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部・北部ともに “ 平年並み ”。

(註) 引用符 (“ ”) で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

- | | |
|-----------------|---------------------------------|
| “ はなはだ高め (低め) ” | : 約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ (低さ) |
| “ かなり高め (低め) ” | : 約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ (低さ) |
| “ やや高め (低め) ” | : 約4年に1回の出現確率である1℃程度の高さ (低さ) |
| “ 平年並み ” | : 約2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温 |

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場	福井県水産試験場
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	京都府農林水産技術センター 海洋センター
秋田県水産振興センター	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
山形県水産試験場	鳥取県水産試験場
新潟県水産海洋研究所	島根県水産技術センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	山口県水産研究センター
石川県水産総合センター	社団法人漁業情報サービスセンター (取りまとめ機関) 独立行政法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所